



北野‘JK’順一

(きたの JK じゅんいち・タレント)



11月13日生まれ。沖縄県生まれ。O型。さそり座。父親が中国、母親が長崎出身。沖縄のアメリカンスクールで教育を受ける。インターナショナルスクール在学中の15歳の時にラジオ番組の1コーナーを担当した事がきっかけとなり、この世界にデビュー。以来、各方面で活動が続いている。

- Q.ラジオで音楽番組をされていますが、ご自身も音楽をされていたのですか？
- 地元沖縄でギターをやっていましたね。むかし、イカ天、バンドブームの時、コピー半分、オリジナル半分。メンバーは6人いて、みんなそれぞれ趣味が違うという…川井純、ブルーハーツ、レッドツェッペリン、米米CLUB、パーンソクとか。オリジナルは僕が基本作っていて統一性を持たせるようにしてましたね。今はなかなか時間が無いのですが、数本ある家のギターを好きでたまに弾いています。
- Q.ライブを見たりもするんですか？
- なんでも見ますね。ロックもアイドルも洋楽でもなんでも。
- Q.今、好きなミュージシャンは？
- 狼P(Man With A Mission)。ブレイクする前からずっと彼らを推してて、ライブが素晴らしいので秋、全米デビューすることになったんですけどね。
- Q.子供のころから音楽は好きだったんですか？
- 好きだったんですけど、一番最初になりましたのはウルトラマンの中に入ると。次に、サーカスのピエロ。漫画家だったり、そのあとギターを持ち始めて。誰かに何かを伝えたいっていうのがあったんですよね。昔から。
- Q.ラジオの仕事はいつからされてるんですか？
- 15歳でデビューして31年。30年を超えますね。沖縄で男性初のラジオカーのレポーターをやっていた。いろんなアルバイトもやりましたよ。アーティストさんの荷物持ちとか、コンサートの警備とか。単純にいろんな曲が聞けるからという、高校生の時ですけどね。

- Q.昨年のおおいた夢色音楽祭はどうでしたか？
- 楽しかったですよー。天候もよくて風も強くて、もっちゃんも来てくれたし、のびのびとした感じがありましたね。高校生たちから見て、自分も音楽家として成長してそんな場所だとも思っています。僕がやっているバンドのライブがすごいのは当たり前で、照明とかカーテンとかあつたね。地元のもの食べて見て聴いて育った人たちがスゲーっているのを見るのはいい刺激になると思う。
- Q.今の若者のアマチュア音楽は変わったと感じますか？
- 歌詞の内容が変わってしまいましたね。世界観が変わって。ライン、ツイッターで短文やスタンプでもを伝えるようになってきたのでメロディに歌詞をのせるのもシンプルなものが多くなっているかな。若い音楽家は僕は関係ない時代なので、Youtubeなんかで有名になれる。ただ、僕が入っていた時代は、音楽で飯を食っていたのは、テクニクよりオリジナリティ優先だね。
- Q.福岡の方から見て大分の音楽シーンはどうですか？
- 大分の人はおとなしすぎるのでアピール下手かな。いい素材を持っているのに売込み方が下手。そこがかわれば僕は関係ない時代なので、Youtubeなんかで有名になれる。ただ、僕が入っていた時代は、音楽で飯を食っていたのは、テクニクよりオリジナリティ優先だね。
- Q.今後やりたい事はなんですか？
- 2020年、東京オリンピックの開催の仕事ができたらしいね。街中に流れる声、ただでいいし、やりたいたいという気持ちがある。音楽スポーツはリンクするところがあると思うし、東京オリンピックを絡めてやりたいしなと思っています。

interview：佐藤 寛子



坪井 健一郎

(つばいけんいちろう)

ライブハウス
[T.O.P.S Bitts HALL]
[Club SPOT]代表。

- 大分のライブハウスシーンに坪井氏は欠かせない。SPOTは彼をサポーターやプロデューサーと呼ぶが、坪井氏自身「おしし」だと語る。
- 17歳でライブシーンにおごかれ、その後「ジェイルハウスクラブ・トップス」をはじめ音楽に携わり約30年。彼の上を数多くのミュージシャンが乗り越えていった。昔からこだわりのつづき、周囲からは「怖い」存在とも言われてきたが、彼の音楽に対する志は、どのライブハウスオーナーよりも強い。
- 中学時代から仲間とバンドを始め、高校でロック選手権大会と、坪井氏自身ミュージシャンが音楽のはじめ代であった。その後80年代アングロの影響からDTMへの関わり込んでいく。その時代に東方のP.A業に携わりながら福岡のライブハウスシーンに魅了されライブハウスをオープンすることになる。

- ――「煙草を吸いながら、飲みながら、決して健康的ではなく、健全ではない当時の博多のライブハウスがすごく良かった。こんなやりきれない空間を大分に作りたかった」と25歳の時だった。当時大分には飲食ができるライブハウスを開業しなかった。バンドはオールベースを組んでライブをやっていた時代だった。坪井氏が金をかき集めオープンしたのが「ジェイルハウスクラブ・トップス」である。
- おじさんには興味がない。
- 若い子がロックに興味を示さないのが音楽シーンの衰退につながっていると坪井氏は語る。その中で近年感じるようになった感情があるという。
- ――「おじさん達は上手くて、金があつて、知識があるのはあたり前なんで、全く興味がない。それよりティーンミュージックがぶつと何かを求めて動き出していることが、すごくおもしろい。今の若い子は、いろんなフェスに参加したり自主ライブを開催しながら感動のピークを共有することを自ら知っています。楽しみの頂点がある。2、3年前には感じなかったムードメントを、今は感じます。」
- また、坪井氏は最近大病を体験し、身、心、感じる事が変わってきたと言う。「これから、生きていく上で、あと何回出演とピークを感じるんだろう？何回感動の風景を見るんだろう？そう感じるようになった。だから大事にしたい。だから大事にしたい。プロの仕事をやっている。」
- こだわってやってきた。そしてこれからはこだわらなくなる……。
- 坪井氏のようにプロで、こだわりの持ち主だから、今後も音楽シーンの一助であり続けることは間違いない。

interview：久保田 哲



風雅ムジーク・プラス・アンサンブル 小串 賢右

(おくしけんすけ)

風雅ムジーク・プラス・アンサンブル(金管アンサンブル・トランペット2人、ホルン2人、トロンボーン1人、チューバ1人の6人編成)活動を始めて約10年。おおいた夢色音楽祭は1回目から連続出場。大分県内の施設、お祭り、イベント等で演奏活動をしている。

- Q.バンドを結成した時期ときっかけを教えてください。
- バンドリーダーで高校教師でもある高橋修二先生を中心に教員や音楽仲間が集まって10年ほど前に活動を始めた。風雅ムジーク・プラス・アンサンブルという名前になってからは7、8年くらいです。
- Q.ぶだはどんな曲を演奏しているんですか？
- ジャンルはクラシックやポップス、流行りの曲などです。慰問演奏や訪問演奏が多く、小さなお祭りが主だった。またお祭りなどでも演奏するので、軽きやすい、耳なじみのよい曲を演奏するようになっています。
- Q.メンバーの皆さんはやはり子供の頃から楽器をやっていた方が多いんですか？
- 中高生の頃吹奏楽をやっていた方が多いですが、中には音楽の専門的な勉強をした方、主婦の方もあります。
- Q.皆さんの仕事との両立はどうしていますか？
- 平日の夜、仕事が終わったあと集まって練習しています。メンバーの大半が普段は仕事をしています。

- Q.おおいた夢色音楽祭は1回目から第6回目まで毎年出ています。何か変化は感じられましたか？
- 足を止めて聴いてくださる方が増えましたね。第1回目は、何か途中で変わったことをしている、というくらいしか見えなかったのですが、最近ではジャンルを超えた音楽祭として前に定着してきていると思います。ファイナルのイベントも盛り上げています。音楽祭も盛り上げていきます。お祭りとして振についてきたなど(笑)知名度も上がってきましたね。
- Q.今後のおおいた夢色音楽祭に期待することはありますか？
- PRをどんどんして欲しいですね。音楽に縁のない人も、街中で演奏しているのを見て音楽に身近に感じられるような、もっとたくさんの人が見てくれるような音楽祭にしたいと思っています。七夕祭りのように街を挙げての半開行事として定着し、秋になるとそろそろ音楽の時期だなと誰もが思うようになってほしいです。
- Q.大分の音楽文化についてどう思いますか？
- 音楽に接する機会が少ないのでは、と感じます。どういったジャンルであれ一流のミュージシャンが来ることもあまりないですね。生の音楽に接する機会が単体としてあるといいと思います。僕々がやっている金管アンサンブルですが、コーラスなどは音楽の生活の中で音楽があつて、お祭りのように雑音と楽器を交えて歌を歌ったという感じはなくて、あらかじめきちん準備して入ることを、などど数回高いという、何か特別なことをしている感じがありません。もっと音楽が身近になるとういと思います。
- Q.風雅ムジーク・プラス・アンサンブルとしての目標を教えてください。
- もうちょっと我々の音楽が身近になって、生の音楽を聴ける機会を増やしていきたい。夢は…打ち上げのときにみんなでよくウイン・インに演奏旅行に行きたいね」という話が出ます(笑)
- Q.音楽活動をしていて良かったなと思うことは？
- 聴いているお客さんの目だつたり拍手だつたり、風を演奏を共有しているという一体感がいいですね。あとはなんといっても公演後のビール。お祭りで数時間演奏するの打ち上げです(笑)美味しい酒を飲むのが音楽をやる喜びです(笑)

interview：佐藤 寛子

お問い合わせは、へん、暮らしへ
株式会社アイビク 大分中央支店
〒870-1121 大分市大字野宮 926-7
TEL097-576-8111 FAX097-576-8173